

労働、婦人、幼年工に對する封建制的使役の基礎の上に築き立つた日本資本主義に依つてのみ、初めてかくの如き廉價な商品が可能である。正常的發展を遂げたる歐米資本主義にとつては、この日本との競争は到底勝算は期し得なかつた。これが歐米資本をして韓國市場に積極的に進出せしめなかつた最大の原因である。併してこの點に歐米資本主義をして、キリスト教宣傳等の手段に依る、鐵道、鑛山等の利權探求者として登場せしめた全秘密がある。「韓國誌」の統計はこれをよく物語つてゐる。

在朝鮮各國商館數 (明治二十九年)

國名	仁川	釜山	元山	計
日本	二六	一三二	五二	二一〇
清國	一六	一四	一一	四二
獨逸國	二	一	一	二
米國	二	一	一	二
英國	一	一	一	一
佛國	一	一	一	一

後、又復因循遮護、至有入關則其罪何居、廟堂嚴措飾」(大東紀年、卷五)

かくの如く財政は窮乏の極に達した。これを救ふために清國に袁世凱を通じて五十萬圓の借款をなした。これは一八九二年に成立した。

かくて以上の様な一聯の事情に制約されて、韓國人は支拂ふ事の出来ない債務者となつた。こゝにおいて韓國は遂に貿易における對等者の一方である事を止めた。韓國人の外國貿易は謂はゞ「獨特な貢納支拂」となつた。

上述せるごとく、資本制的商品⇨貨幣經濟が自然經濟(この農業と農村家内工業との直接的結合は農民の飢餓的食扶持の獨特な保證であり、農村過剩人口の生活資源であつた)にとつて代つた。しかもこれは農村に於ける資本主義的發展を意味するものでなく、凡ゆる先行する生産形態(それは人間に依る役畜の代置、最も寄生的な收取的形態の無制限的統治に立脚する經濟的沈滞！それであつた)にただ「文明的」な資本主義的衣裳を着せて、封建的⇨官僚的及び高利貸的收取の凡ゆる形態を復活し甦生させ、かくて彼等に廣汎なる存在の餘地を與へたに過ぎない。かくてこの外國資本主義の侵入は、農民を二重三重の色とりどりの形態に依る收取に依つて零落せしめ、従來の農村家内工業と農業との直接的結合を破壊した。その結果は、治者階級にとつてもまた財政的な一大打撃であつた。更に釜山、元山、仁川等の開港費、武器購入費、新式軍隊の設置費、諸事變の償金、海外使節派遣費等の増大せる行政費はこれを一層激成した。そして、國家財政が窮迫すればするほど掠收は強化した。そこへ拍車をかけたのは閔妃の行動であつた。彼は事實上の政權掌握者として、金剛山一萬二千峯には峯毎に錢十兩と米一石とを供獻すると共に、他面多勢の者をして卜術をなさしめ、山川、名所に祈禱し、宮中に於ては卜術の技と豫言、歌舞、音曲、祈禱祀が日常の事務

動の決定的な弱點は意識性の微弱であつた。農民の憤激は諸制度や經濟的狀態に向けられないで、それを體現する人間に向けられた。農民達は明瞭な綱領を持たなかつた。それは悪官僚一般に對する宣戰であつた。そしてこれは何世に亘る實踐に依つて作り出されたものである。これは一方に於ては資本主義的收取の容赦なき批判者、即ち正氣の現實主義であり、他方に於いてこの世に於ける最も大きな山師である宗教の説教！政府の役人たる儒生（坊主）のかはりに、道德的確信ある儒生・坊主を置かんとする努力、最も清淨なるが故に、特に呪ふべき儒生・坊主主義の養成であつた。即ち一方に於ける己れの收取者に對する憎惡とその現實化の行動！他方に於ては半熟・半可通な東學儒・佛・仙の名に依る西學破壊、新しい祈禱及び儀式の採用がこれである。

農民大衆は己れの階級的イデオロギー、己れの眞の指導者を生み出すことが出来なかつた。彼等は依然として失業・失意の官僚及び商業層中のその縁者の助けをかりた。農民大衆の運動が全面的に發展すると東學黨の上層たる高級首長崔海月は己れの弟子孫秉熙をして、運動の總指導者全璋準に對して、「政治」と「宗教」の差異を強調して、この運動への農民東學黨員の参加を禁止せしめた。しかしそれにも拘らず農民東學黨員達は運動に参加した。だから東學黨の指導部は最初から運動に反對であつた。

だが一部の指導者には英雄主義が必要であつた。即ち民衆の大衆的憤激に押された東學黨の闘士達は、その運動の狹隘な内容を彼等自身から蔽ひ隠し、彼等の熱情を世界史的水準にまで高めておくために必要な「理想」「朽板」「自己欺瞞」の方法を見出さなければならなかつた。

それほど運動が大膽に發展したのは、下からの壓力そのものに依る。政府は己れの手で鎮靜出来得ない事を理解し

十三、驛人、俳優、皮工等の賤民制を廢する事。

十四、從來の科擧を廢し新に官吏登用法を設ける事。

十五、新刑法の編纂するまでは、大典會通刑典を施行するも拷問するを得ず。

十六、租税の納入には穀物、織物其他物品でなく今後一切金納に改める事。

十七、各道監司に命じて郡縣の守令をさせて、各方面から一人を選出して郷會を組織させ、その議決を得て政令を施行する事。

十八、品行方正で鋭敏な少年を選出して海外に留學させる事。

十九、各衙門に外國顧問官を聘用する事。

二十、宮内府の大小官吏は各郡、各衙門の大小官吏に兼任するを得ず。

二十一、鴉片の使用は從來にも禁止したけれど、今後一層嚴禁する事。

二十二、各州縣には適宜に社會を設けて備荒貯蓄する事。

二十三、以前宮内府並に各司から諸道に誅求してゐた廢習を一切禁ず。


戰爭の結果、日本が勝利した。戰爭中日本は軍用のために多くの鐵道や電話等の所謂「文明の利器」を朝鮮に輸入した。

これに續いて日本は己れの原始的蓄積時代の一切の方法を朝鮮に移して不斷に前進した。この強力的に行はれた日本に於ける資本蓄積の一積杆としての「資源吸收」制度は、交易と航海とを溫室的に成熟せしめた。その使命遂行の

世 共和國の成立を見る。かゝる改革も外國資本の強力なる侵入によつて支那を救ひ得ず、列國資本の利權爭奪のための舞臺と化し去つた。

る自然經濟の破壊を受け、農民は陸續として支那、日本に渡り、都市勞働者の群に投じ始めた。

統監府置き、一九一〇年日韓合併によつて朝鮮を完全なる勢力下に歸屬せしめ、資本蓄積を遂行した。更に一九一四年歐洲大戰の開始によつて大工業の劃期的發展を見るに至つた。



昭和十一年四月一日印刷
昭和十一年四月五日發行

朝鮮社會史讀本
定價 金壹圓參拾錢

著者	李 清	
發行者	東京市神田區美土代町四 中村 德二郎	
印刷所	東京市麹町區土手三番町二九 谷 口 印刷所	
代表者	谷 口 龍之助	
發行所	東京市神田區美土代町四 白 揚 社	

振替東京二五四〇〇番
電話神田(25)二二八五番